

特別寄稿

創造の原点と輝き — 9

バウハウスの造形教育



浅野忠利

●産業革命がもたらせたもの

18世紀末イギリスに端を発した産業革命は、生産手段に大きな転換をもたらせた。背景には大量生産を求める社会の出現があった。主役は、中産階級で、その家庭生活に大きな変化がみられた。まずは、生産・販売・消費の分離により、主婦は家事への専念が可能となり、消費の主役に躍り出たことである。今ひとつは住居の改善による私生活の確立である。住居に於ける最も大きな変化は、廊下による部屋の機能分化が果たされたことである。かつての厨房から居間と客間の分離が進み、食事の場からは寝室が独立し、個室も数を増やした。ここで見逃せないのは、暖房設備の改善、水洗便所の発明、浴室の出現、鏡の活用など技術の革新である。こうした私生活の確立は、流行と大量生産の基盤となった。しかし、機械による大量生産には大きな落とし穴があった。質の低下である。バウハウスは、質の低下を防ぎ、生活環境の向上に資する為の出発であった。

●バウハウスの理念

創立のときに宣言されたマニフェストには以下の3つの主張がある

- ・総ての造形活動の最終目的は建築である
- ・建築家、彫刻家、画家は手工業に回帰しなければならない
- ・芸術家と創り手とが一体であらねばならない

このように、手工業の技術に立ち返ることを主張した背景には、大量生産・機械生産のもたらす製品の質の低下が、生活環境の破壊にまで及ぶ危機的状況まで進行していたことがあった。

大量生産・機械生産を支配すべき芸術家（デザイナー）が、それなりの説得力を身につけるには、質の高い製品を生み出してきた手工業の職人から技術を学び、ここを出発点としなければならないと考えられたのである。

1922年2月グロピウスは、予備教育を巡るイッテンとの論争を経て、生活環境を構成する諸事象において、芸術と機械生産の統一を求める事を明言し、芸術家と生産現場の一体化を軸に、造形教育を進めた。標準化とか規格化といった工場生産に欠かせない道具を備えつつ、造形教育を肉付けたのである。特に、 Dessauに移ってからは、新たに、手工業の技術による制作を工場生産のための試作とし、制作活動の場であった工房を、機械生産の原型を創出する実験工場として位置付け、工場や機械を支配できる人格の養成を図ったのである。

●造形教育の実態

教育の場は予備課程（後の基礎課程）、工房教育、建築教育とそれぞれに理論を加える形で実施された。このうち特に、予備課程と工房教育に他の追随を許さない高度な工夫が込め

られている。予備課程のマイスター（教える人）陣はイッテンなど3名の画家を中心に編成され、それぞれ独自の発想と手法により、形態、色彩、素材の基礎的事項に加え、人間の生物的・生理的把握、空間認識、音の視覚化など熟慮を重ねたプログラムが組まれていた。その期間は当初半年であったが後に一年となった。工房教育は手足を動かし、労働を通して技術の習得に努めた。工房は『木』『金属』『織物』『ガラス』『石』などの基本部分に加え、『家具』『舞台』など幅広い分野が調べられた。今一つ、大きな輝きを放ったのは、工房教育の制作活動を支え、高める理論の学びとその展開であった。その中でも出色の講義は、画家クレーの形態論、画家カンディンスキーの「対象の観察、分析、再構成の実習による論理的な思考と総合的な把握」、画家シュレンマーの人間論などで、これら個性的で多角的な視点を基本とする講義は多くの学生を虜にした。高名な画家や建築家の語る理論は制作活動と一体となって生活環境を取り巻く、一つ一つに命を注ぎ込んだ。中心をなす建築教育は、3代の校長がすべて建築家であり、実践の場での教育に重点が置かれた。特に2代目の校長マイヤーは短期間であったが、建築教育を軌道に乗せ、すべての芸術を建築に統合することを実践した。

●忍び寄るナチスの足音

ワイマール共和国政府の弱体化と保守勢力の台頭により、バウハウスの活動の場は徐々に狭められた。結果1933年ナチスにより解散に追い込まれる。その経過を追う。

- 1919：03 グロピウス初代校長に就任 4月バウハウス宣言
- 1920：10 男子学生 78、女子学生 59
- 1923：08 バウハウス週間 09まで大規模なバウハウス展
- 1924： 夏学期マイスター 16、学生 89、休暇 28
 - 11 予算の圧縮 146,000rm を 50,000rm に
 - 12 国立バウハウスの自主的解散を発表
- 1925：03 市立機関として Dessauへ 冬学期学生 63
- 1926： 市の補助金 100,000 r m 学生 83
- 1928：01 市より縮減予算提示 02 グロピウス辞表提出
 - 04 マイヤー校長に就任 支援者 460 学生 166
- 1929： 32,000 r mの特許収入 男子学生 119 女子学生 51
- 1930：07 市長が校長マイヤーに辞職勧告 10 学長ミース、
- 1931：11 Dessau市議会選挙でナチスが第一党に
- 1932：08 ナチスの提案により市の参事会が閉鎖を決定、
 - 10 私立学校としてベルリンで再開
- 1933：04 ナチス親衛隊による強制捜査
 - 07 マイスター会議で閉鎖を決定

今回は、この潮流を受け継いだ西ドイツウール造形大学を訪れることとした。 以上